



社会医療法人近森会

発行 ● 2011年 11月 25日

びろっば 12

Vol.305

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

東日本大震災の経験を通して

災害対策委員会委員長
呼吸器外科部長

山本 彰



災害机上訓練行われる

東日本大震災は東北地方の太平洋沿岸に未曾有の被害をもたらした。これは同時に高知県にとって東海・東南海・南海3連動地震がこれまで以上に現実のものとなってきた。現在地震規模の想定が見直されているが、近森病院でも災害備蓄品や自家発電などの再検討をするとともに、災害対策マニュアルの改訂が迫られている。一方10月1日付で管理部に危機管理室が創設され、平時の情報収集とともに災害時には対策本部の中心となることが期待されている。そこで今年の防災訓練は災害時対応の核となる「災害対策本部の充実」を中心テーマとすることとした。

10月16日に管理部による本部の構築を中心とした予備机上訓練を行った。大規模事故に伴う多数傷病者受け入れを想定して、立ち上げ、情報収集など問題点を検討した。この予備机上訓練を踏まえて、11月19日に一般医療職員を含めて総勢110名の参加者で総合机上訓練を行った。約2時間の机上訓練の後に反省会が行われたが、参加者からは例年以上に活発な意見が出て、今後活かされると思われた。

NBC テロ対応装備の展開訓練

従来のNBC(核、生物、化学兵器)テロに加え、放射線災害、爆発事故を加えたCBRNE災害は、交通事故や天災による大災害などと異なり、除染作業など特殊な対応を必要とする災害といわれている。当院のDMATは2010



NBC テント

年1月に、隊員5名がNBC対応訓練を受け、3月には除染テントなどが配備されている。今回9月23日に、管理部職員による



自分の持ち場の状況を真剣に確認する参加者
エアータントの立ち上げ訓練を行い、除染機材の概要の説明を受けた。テントの立ち上げは、訓練を繰り返すと、比較的短時間で行えることを確認できた。11月19日の机上訓練の際には、参加者にCBRNE災害の講義が行われ、除染テントの展示も行って理解を深めた。
やまもと あきら

発想の転換



近森 正幸

この数年、近森の医療が大きく変わっているように思われる。医療に対する考え方や概念そのものに、これまで考えられなかったような変化が起こっている。たとえば、近森病院のなかで手術料の算定が最も高いのは、心臓血管外科とか整形外科といった手術室で難しい手術を数多くしている科ではなく、わたし自身想像もしていなかった内科であった。なんと二番手の科の倍以上に上っている。

以前は手術室で行うものと思ってい

災害医療講演会

山形県立中央病院
救命救急センター診療部長
森野一真先生を迎えて

11月16日、「災害への備えー東日本大震災の経験」と題しER勉強会が行われた。森野先生は東日本大震災では山形県への被災者の受け入れも含め、石巻市へ数回に渡り医療支援を行った経験から災害医療についてご講演をいただいた。急性期から慢性期の多岐にわたる支援の経験は、南海地震に伴う津波、浸水が予想される高知市、当院には示唆に富む有意義な講演であった。1週間前からの準備期間にもかかわらず約70名の参加があり、盛会であった。



救命救急センター長 根岸正敏
ねぎし まさとし

た手術を、器械や手技の進歩で血管造影室や内視鏡室で出来るようになり、しかもその数が飛躍的に伸びている。切らずに治すことが出来るようになったことで患者さんの負担は軽くなり、早く退院できて医療費も安くなった。

急性期病院における外来もずいぶん変わってきている。このほどオープンした外来センターは、予約専門外来として専門医を必要とする患者さんに専念する体制になっている。

地域のかかりつけの先生方から見ると、診察中にちょっと気になる患者さんがいれば、予約センターに予約を入れて紹介状を持たせれば、確実に専門医が診てくれるし、返事が返ってくるので、安心して患者さんの経過をみることが出来る。患者さんが急変すれば救命救急センターのER(救急外来)に来ていただければと思います。

近森病院の外来機能を、あたかも本院の専門外来であるかのように自由に使うことが出来る。これは医療システムの大きな変化といえないだろうか。

理事長・ちかもり まさゆき

変形性膝関節症に対する 手術療法—その三 「人工膝関節置換術」

近森病院整形外科統括部長
衣笠 清人



前号までに中等度までの変形性膝関節症に対する治療として鏡視下デブリードマンと高位脛骨骨切り術について説明してきましたが、今回は高度の変形に対する手術療法としての人工関節置換術のお話をいたします。

人工関節手術には全置換術と単顆置換術とがありますが、重症例には全置

換術が一般的には行われます。適応は内側（または外側）の関節軟骨がすべて消失し、さらに内側（または外側）の骨まで削れてO脚（またはX脚）がひどくなってきたような重症例です。この時期になると歩行時痛はとて強くほとんど歩けなくなってしまう場合もあります。

近森病院に赴任以来23年間、週2回の病棟回診（最近では1回はカルテ回診のみ）と週1回数例の症例検討会を続けています。病棟では複数の主治医と病棟医長で二重、三重のチェック体制となっていますが、若い先生も上級医の先生も外来、救急、検査、会議などで忙しすぎて、ついつい見落とししたり先延ばしになっている問題点も少なくありません。それを違った目でチェックしひろいあげることで、一種のリスク回避策になっているかなと思っています。

各病棟で師長さんについてもらい、20人くらいのカルテをチェックし忘れないうちにさっとみてまわるということを繰り返し、約6時間で200人を回診しています。実際に患者さんのところにいる時間は極めて短いので、時々短かすぎるとおしかりの投書を受けますが、ご容赦をお願いします。回診中は集中力も必要で若

い先生に解説する時間もないので、毎週数例問題点のある症例や教育的な症例を選びだし、症例検討会でdiscussionや解説を加えるようにしています。

電子カルテの導入で、熱型表がなくなり検査の通覧性が悪くなり、一時はどうなるかと思いましたが、いろいろ改良していただき、今では毎朝の新患チェックやベッドコントロール、回診時のカルテチェック、カンファレンスでの症例呈示などに欠かせないものとなっています。

近森院長、北村副院長のおかげで、この年になっても管理的な仕事に忙殺されず、医者三昧をさせてもらえる立場にたいへん感謝しています。年をとってきて集中力も鈍り、いつまでできるかわかりませんが、内科はひとつという近森病院の伝統を守りながら、若い人たちに少しでもこれまでの経験を伝えていければと思っています。

— 私の流儀 — 8

病棟回診と症例検討



近森病院副院長
はましげ なおひさ
浜重 直久

12月の歳時記 クリスマスローズ

近森オルソリハビリテーション病院
4階病棟看護師 岡上 真理

12月といえば、クリスマスということで、この花にしました。花言葉は「いたわり」。あまり派手ではないですが、路地花の少ない頃に咲く可憐な花です。別の花言葉では「私の不安を取り除いてください」というのもあり、まるで祈っているかのような言葉ですね、このような思いの方がいたならば早く不安が解決しますように。 おかうえ まり



絵・総務課
広報担当
公文幸子

手術は靭帯のバランスを調整してO脚やX脚を矯正するように大腿骨・脛骨の骨表面を正確に切り取った後に金属のコンポーネントに置き換え、適切な緊張度になるような厚さのポリエチレンサーフェイスを最後にはめ込むというものです。

当院ではその成績が安定していることからセメントを用いた術式をずっと施行してきましたが、最近では材質の進歩に伴いセメントレスの術式も骨質の許す範囲で導入しています。ただし出血も他の術式よりかなり多く輸血が必要となる場合もありますし、侵襲の大きい手術ですので、術前には整形外科医と十分にご相談ください。

きぬがさ きよと

Chikamori ★ Kitchen 13

生姜の炊きこみごはん

臨床栄養部管理栄養士

主任 内山里美 (文) 写真左
西森 瑞愛 (作) 写真右



今年もあと少し、いかがお過ごしですか。今回は生姜を使った炊きこみごはんをご紹介します。生姜は消化吸収を助けたり身体をあたためてくれる効果があり、これからの季節にぴったりの食材です。これから寒さがきびしくなりますので、生姜を使った料理はいかがですか？愛情たっぷりの手作り料理だと、心もほかほかとあたたまりますね。

●材料 (2合分4人分)

- ・米 2合
- ・生姜 2片
- ・わけぎ (盛り付け用) 1/2本
- ・生姜 (盛り付け用) お好みで

〈調味料〉

- ・めんつゆ 50ml
- ・醤油 小さじ2
- ・みりん 小さじ2
- ・塩 小さじ2
- ・酒 少量

●作り方

生姜は千切りにし、わけぎは小口切りにしておく。米を洗い、水と調味料、生姜を入れて炊飯器で炊く。炊き上がったからお好みで生姜の千切り、わけぎを上に乗せてできあがり。

うちやま さとみ (文)
にしもり みずえ (作)

環境を 創意工夫することの 楽しさ

近森オルソリハビリテーション病院
看護部長 尾崎 貴美



5階は「ベッド周辺の整理・整頓～コードをすっきり～」。左の写真の如くです

果が得られました。

これらの発想がスタッフの中から考案され、ほんのすこしの手間ひまとお金で現場に反映されるその“プロセス”をうれしく思いました。オルソ病院も5年目に入り、生活の場としての療養環境

先日看護部で業務改善活動の発表会がありました。今回オルソは5階6階が発表しました。

回復期ではADLが上がり活動力が多くなるにつれ、様々なものを手元に置きたくなります。物が多くその中で丸めて置いていたコードやリモコン類を、スパイラルチューブでまとめて、リングつきマジックテープでベッド柵に吊ると左右にそのままスライド出来、自由な位置に移動できる仕組み。スタッフが「特許をとりたいね!」という位ベッドサイドがすっきりしました。ちなみに予算は100円ショップで購入して組み合わせたもので、1セット100円もかかりません。

6階は「有効なワークシートの活用を目指す」で、申し送り廃止に向けて有用な方法としてオリジナルなワークシートの内容が検討されました。今まで各勤務帯で独自のワークシートで申し送り、送られる側は自分のワークシートに書いていく(ある意味ムダ?)なことがされていましたが、それらを統一して使用することで共有活用でき、申し送り廃止につながりました。それに伴って電子カルテ上での記録の整理や充実、付箋の有効活用ができ、申し送り廃止による空いた時間(約30分)は各自ベッドサイドに行く時間が増え、何重にも効

と個々に合った看護サービスと質の内容に皆が目を向けることが出来た事、楽しみながら主体的な看護・ケアが出来た事、一人ひとりの発想はオルソの財産です。 おさき きみ

私の趣味

息子の撮影

近森会健康保険組合
五藤 綾美



よき友くすし

18

アルコールに潜む謎



近森病院薬剤部 横川 友美

薬の効きが強くなることがあります。

また、毎日大量に飲酒をする人は、この酵素が増加しています。そのため薬は、大量の酵素により速やかに代謝され、薬の効きが悪くなる場合があります。

薬の効きが強くなった場合、たとえば次のようなことが起こる可能性があります。

糖尿病治療薬…低血糖
抗血液凝固薬…出血の危険
血圧降下薬…過度の血圧低下
睡眠薬…睡眠作用の増強

その他の薬でも副作用が発現しやすくなる場合がありますので、注意が必要です。また、病気によっては、飲酒が禁止されていることもあります。禁止されていない場合でも、アルコールの量などの指導を受けましょう。

アルコールと薬……、あなたの謎は少しでも解けたでしょうか。

よこがわ ともみ

これから年の瀬を迎え、忘年会など、飲酒の機会がますます増えますね。皆さん、飲酒すると、「薬が効きすぎる」また、「薬の効きが悪い」など、耳にしたことはありませんか? その謎は、「酵素」に隠されていたのです。

薬にはアルコールと同じように、体内で肝臓にある酵素で代謝されるものがあります。飲酒中に薬を飲むと、酵素はアルコールの処理に働くため、薬は代謝されずに体内に残ってしまい、

私の最近の趣味は息子を撮影することです。現在9カ月になった息子は、毎日色々な表情を見せてくれます。この時期にしか見られない表情やしぐさがあると思うと、つついカメラをむけて撮影! 生まれてからの写真が500枚ほどになりました(笑)。

最近は表情だけでなくハイハイをしたり、つかまり立ちをしたり、色々なことができるようになる息子を見ると、嬉しくて成長していく過程も撮影したくなります。これからも息子の色々な表情や成長をたくさん撮影し、将来大きくなった息子と写真を見ながら会話できることを楽しみにしています。

掲載の写真は、「ひろっぱ」を息子(4カ月)に渡したときの写真です。あたかも真剣に「ひろっぱ」を読んでいるかのような光景だったので記念に撮影してみました!!

ごとう あやみ

近森会グループ第4回写真展受賞作品

理事長賞 花の都パリでこんなアホなことができるのは近森のパワーの源泉。近森



理事長賞 水面に輝く朝日と影のコントラストが絶妙で、芸術性も高い。近森



▲『今朝の仕掛けは?』臨床工学部MEサービスセンター/下西忠夫「朝日を撮影しての帰り、橋の下で人影が動くのが見えたので急いで撮影しました。もったいいいアングルからと移動中、岸に上がってしまい、最初に撮った1枚です」

▲『エッフェル塔4人娘』オルソリハビリテーション病院理学療法科/小迫真理「3年前の旅行での写真。選んでいただき本当に嬉しく、これからも、アホなことと一緒に楽しめる友達を大切にしていきたいです」

統括看護部長賞 ボクが大きくなったとき、夏の日この一瞬をとらえてくれたことを感謝するでしょう。梶原



『Enjoy! 僕の夏』画像診断部/久保行広「この度は私の写真に賞を下さりありがとうございます。この夏に家族で海水浴に行った時の写真です。当日は低気圧の接近で波が高かったのですが子供が楽しく波打ち際で遊んでいたため、私もカメラも濡れながら激写した一枚です」

統括看護部長賞 空と建物と水辺の三点が色彩的な美しさはむろん、立体感を帯び、哀切迫るものがありました。梶原



▲『水辺の情景・1』麻酔科/島中豊人「夏休みに家族で宿泊したフロリダのホテル周辺の風景です。暮れなごんでゆく水辺の、日本とは異なる独特の空気感を表現したくて、3枚組みに仕上げました。1枚が光栄にも受賞し、3枚目に偶然写ったクロコティルも驚いているようです」

管理部長賞 若さと男の迫力に圧倒されます。川添



管理部長賞 永遠の美少女の原風景。川添



▲『ヨイヤッサー!』放射線科/宮崎延裕「本祭最後の追手筋です。サイコーの舞台上でテンションMaxの彼の勢いを切り取ることができました。スタッフの粋な計らいで写真を通してよさこいを楽しみ、さらにこのような賞まで。クセになりそうです(笑)」

▲『みかん狩りそっちのけ〜』オルソリハビリテーション病院理学療法士/高橋佑輔「保育室「そと」の遠足でのみかん狩りの時、娘とお友達で。なによりも走り回って遊ぶのに夢中な姿がかわいらしく、良い写真が撮れました」

風景が上手に融和しており、自分の小さかった頃を思い出すような一枚である。片岡



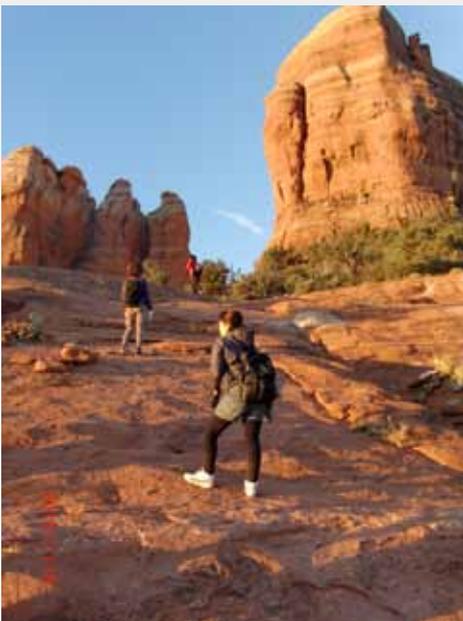
コミュニケーション委員長賞 人物と
▲『家路』救命救急病棟/太田垣日出美「撮影は絵を描く感覚で日常をきり取っている。今回、「子供の頃にタイムスリップしたような場面」というにいただいたことちょっとした感慨でした。」

作品は少数派と思われの中で、近くの五台山で、このような作品を撮影したのに感動した。片岡



コミュニケーション委員長賞 和風の風景
▲『秋の竹林寺』オルソ6階病棟/山崎成美「色づき始めたもみじをとりに行ったが、秋の気配なくがっかりして撮影した一枚、賞をもらえてうれしい。趣味がない自分ですがもっと上達できるようにのんびりと飽きずに頑張りたいと思います」

古茂田賞 人の配置がびたっと揃ったシャッターチャンスのをがさずよく撮れている。古茂田



▲『挑む!』腎透析センター/久岡和代「暗闇を出発し、朝日を浴び黄金に輝く目的地に向かいました。後尾で余裕ありませんでしたが、雄大な大自然に感動しながら撮った中の一枚です。思いがけない受賞に、セドナパワーを感じました」

古茂田賞 よくある風景だが、バックの赤と狭さ、画面整理が良くできている。見下ろした角度や子どもの視線も良い。古茂田



▲『ぼくの居場所』臨床工学部/小椋博明「スーパーマーケットの店内で息子と遊んでいたときに撮った一枚が受賞するとは夢にも思いませんでした。最近、写真を撮ると一緒に遊ぶという状態になりつつあるので、この賞を糧にして今後も成長の記録を残していこうと思います」

近森病院スープサービス5周年20回記念イベント〈10月15日(土)〉

「あなたのために……」
辰巳芳子さんのいのちを支えるスープ教室近森会グループ・スープサービス責任者
近森病院副院長 北村 龍彦

え、職員、スタッフ合わせて約150名がこの貴重な体験を目の当たりにしました。終了後8階の職員食堂で、エムサービスの全面的協力を得て忠実に再現された3種類のスープと

近森会グループの入院患者さんへ辰巳芳子さんの「いのちを支えるスープ」を提供し始めたのは2006年8月21日でした。辰巳さんはじめ多くの仲間の協力により、第1回のスープサービスが始まり、以後年4回四季折々の厳選された食材を調達し、熟練された技

で心を込めて調理、今年で5周年を迎えました。このたび記念イベントとして、新築になった管理棟3階の大会議室で「食と命に関する哲学的な内容の記念講演」を開催するとともに、辰巳さんのご自宅の鎌倉で開かれている「スープ教室(メンバー希望多数、数年待ち)」を忠実に再現し、同じ会場で4種類のスープの仕込みから完成までを、内弟子の対馬さんと高知パレスホテルの田中シェフに実演してもらいました。

一般参加の応募ハガキ657通、応募人数1047名から選ばれた116名に加

障害者授産施設のファミーユで障害者の方が焼かれたパンを提供しました。

参加者の皆さんは、人生の示唆に富む講演内容に感心し、伝説の調理方法とコツを目の当たりにして心ときめかせ、完成品を自分の舌で体感し、心身共に温かい「あなたのために」の感動を得られて帰られました。参加者の皆様が素晴らしい人生をお過ごしいただけますように祈念して終了しました。スタッフおよび関係者のご協力に感謝申し上げます。 きたむら たつひこ

奨励賞 シャッターのタイミングがフラフの動き方のよいところで撮れている。大胆さがいい。古茂田



◀「ちかもり」臨床検査部/橋知佐「今年はフラフが二つになり勢いと力強さ、踊り子と支えるスタップたちのチームワークの良さが倍増していました」

奨励賞 目的を持って撮られており、タイミングを待つ努力が見られた。古茂田



▲『大漁の朝』島巻佳代

奨励賞 調子、アングルが良い。後ピンが残念。よければ古茂田賞だったかも。古茂田



▲『看板息子』初期研修医/森岡汐里「犬は料理店の看板息子のしんのすけ君。遠回りして挨拶しながら買い物に行くのが週末の楽しみでした。寒くなってきましたが元気でいるでしょうか」

院外エッセイ

観光振興の現場から

香美市地域雇用創造協議会

事業管理者 町田 亥作

1959年土佐山田町生まれ。大学卒業後、専門紙記者、代議士秘書、地方テレビ局、団体役員等を経て、2009年香美市地域雇用創造協議会設立とともに現職。香美市の観光や地場産業の振興を通じた町づくりに携わる。



JR土佐山田駅構内にある香美市いんふおめーしよんで

香美市という草深く、山深いところで観光を中心とした産業振興に係る仕事をさせていただいている。観光という事業のキーワードはホスピタリティーであり、『ひろっば』の目指すものに関連付けられるものと思ひ、日々の雑感を記させていただく。

昨年の高知観光は龍馬ブームに沸いた。大河ドラマの効果にあやかろうと官民あげでの取り組みは弥太郎や瑞山などの周辺人物に光をあてることにもなり、一定の成果もあがり意義のあることであったと思う。

そして今年である。ポスト龍馬伝については早くから知事をはじめ関係者から様々な見解が出されていた、歴史の舞台で光芒を放つ土佐人をテーマにすることは躍動感の伴うグッドアイデアだ。新たな構想に期待していた。戦国の梟雄「長宗我部元親」か？はたまた「自由民権」か？

いざ発表である。志国まではよかった。幕末維新の土佐の志は自由民権運動に引き継がれる、きっと…と思ったのも束の間。またぞろ龍馬である。振興策の中身を批判するつもりはない。食や自然など貴重な資源の掘り起こしなど勘所も抑えているとは思う。

が、テーマの設定に少々落胆を覚えたのだ。志国と言うように要は「志」の問題なのだ。「まつろわぬ民」としての土佐人の志は幕末維新の奔走から自由民権に受け継がれたと確信する。われわれ土佐人はその遺伝子のつながりの中にある。県詞「自由は土佐の山間より」は世界遺産級の言葉だ。今年はそこに歴史を進めていただきたかった。

観光旅行の目的は明らかに大きく変化している。見物、宴会、買物のために金と時間を消費する客は激減した。人は生きるためにたくさんの不条理に耐えなければならない。経済社会の荒波も越えねばならない。そんな現実を生き抜く人は、心の再生を求め旅をする。自然の美しさや食事のおいしさへの感動が真の心の癒しと再生につながるためには、その場所でそれを担う人間との交流が欠かせない。端的に言えば旅人は我々「土佐人」に会いにくるのだ。志の高いごっそうやはちきんに会いにくるのだ。観光とはかけがえない貴重な時間の消費では、もはやあり得ない。むしろ貯蓄だ。

自由の発祥の地である土佐の深い山里は日本人の心の銀行なのだ。だから融資もある。 まちだ いさく

リハビリテーション ・ケア合同研究会 (くまもと 2011) 「火の国」は熱かった!



近森リハビリテーション病院院長
佐々木 司



10月27～29日の3日間、熊本で開催された大会には2300余名の医療、介護、福祉関係の多機関、多施設の文字通りの多職種が参加し、熱い議論が交わされた。近森のリハビリテーショングループからは24名が参加し、11演題の発表を行うと共に多施設との交流

病棟採血始めました。

近森病院
臨床検査部主任
橋 知佐

10月1日より4西病棟の早朝採血を、4西看護師とともに臨床検査技師も始めました。



普段私たち臨床検査技師の仕事は、生理検査(心電図、脳波、肺機能、心エコー、腹部エコーなど)、輸血検査(血液型、血液製剤管理)、細菌検査(培養、同定など)、病理検査(組織診標本作製、細胞診)、内視鏡検査介助、検体検査業務をそれぞれ専門分野の技師が行っています。これら専門分野の検査業務とともに、あまり知られていないかもしれませんが“採血”を行うことも臨床検査技師として重要な仕事のひとつです。

外来センターオープンにより3階中央採血室の採血は、全て臨床検査技師が行っています。私たち技師は採血手技においても、採血した血液の適正量や各検査項目に応じた血液検体を扱うスペシャリストですので、外来患者さんには安心して採血をうけていただいています。

今回4西病棟での早朝採血開始にあたり、入院中の患者さんにもお会いする機会が増えることになりました。正確で安心安全な技師による採血を行うためにもみなさまのご協力をお願いいたします。 たちばな ちさ

を深めた。

大会は「熊本方式」という地域連携体制を生み出した当地のリハビリテーションについての大会長の講演から始まった。この連携により急性期、回復期の在院日数が短縮され、その成果が認められた。しかし、outcomeは変わっておらず生活期におけるケア・支援体制への負担は軽減されているには至っていないと思われる。これに関して、回復期(亜急性期)から生活期への連携が十分でないという問題点が話し合われ、その解決方法が議論された。

更に大きな問題は、生活期の現状

お知らせ

【地域医療講演会】

①平成24年1月13日(金)18:30～20:00

「ひきこもりの現状から

～当事者、家族の思いを支える

医療機関のアウトリーチ～」

講師：国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所社会復帰部部長
伊藤順一郎先生

場所：近森病院 管理棟3階大会議室

②医療安全セミナー

平成24年1月21日(土)10:00～12:00

「安全に排泄するための動作」

主催：近森リハビリテーション病院
医療安全委員会

場所：近森病院管理棟3階大会議室

であり、在宅でのリハビリ、介護不足や孤独死の増加等も報告された。健康寿命と平均寿命の差は8～10年間とされ、この間の医療、リハビリ・ケア、看取りの問題に対応すべく地域包括ケアシステムの構築が急がれているが、専従のコーディネーターの必要性や増加する高齢者と減少する労働者に対応すべく「集住」という方法の提案もあった。

最終日には、来年の「診療報酬、介護報酬同時改定の方向性とリハビリテーション」について厚生労働省特別講演があり、質疑、応答も行われた。来年度にならなければ詳細は明らかにならないが、現状と大きな変化は無いという印象であり、かくして山積している根本的な問題は残された。しかし、大会に参加した人達、特に真摯で熱き思いに満ち溢れた若者達のエネルギーには圧倒された。このエネルギーを結集できれば明るい将来も夢ではないと言う希望を胸に熊本を後にした。

ささき まもる



おつき なりました

診療支援部医事課
武田 知子



▲いまのアンコ



▼よくコタツで丸くなっていた子犬のアンコ

愛犬「アンコ」(♀3才)がひろっぱに登場するのは実は二度目なんです。一度目は269号(2008.12)の「飼い主募集中」の記事で、お母さん犬のおっぱいを一生懸命飲んで五匹のうちの一匹です。この記事がきっかけで我が家の三代目ワンコとして家族の一員となりました。

写真はまだ子犬の頃のアンコ。今では大きくなって16kg。この頃からこたつが大好きで、大きくなった今でもまるで猫のようにこたつで丸くなっています♪ 見た目はこわいですが、そんな姿が我が家の癒しになってます♪

たけだ ともこ

体感する!!

「見て、触れて、感じる」
ウエットラボの醍醐味

当番事務局長 長尾 進一郎
(近森病院臨床工学部急性期 CE チーム主任)



▲様子を見に来られた近森理事長もついつい引き込まれる場面も……



恒例となった隔年企画のハートセンター「心臓血管ウエットラボ」を10月23日(日)に新築の管理棟3階全フロアを会場として行いました。

これは無菌豚の心臓を用い、濡れた

状態(ウエット)でその解剖や治療法に実際に触れて体験する勉強会です。

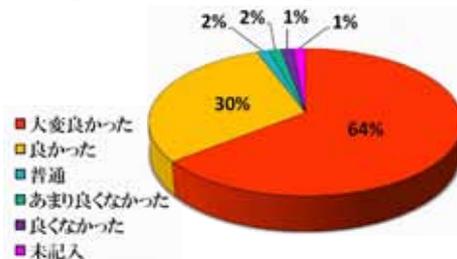
今回も県内外から多くの参加があり、総勢200名を超える大規模な実習となりました。内容は心臓解剖、心

臓病理、PCIや大動脈ステントグラフトなどのカテーテル治療、刺激伝導系のアブレーション、冠動脈バイパス、人工弁置換術、心臓エコーなど、テーマ別に分かれたテーブルをローテーションする方式で、午前10時から約5時間みっちり勉強しました。どのブースも活気があり、参加者から「貴重な体験で感動した」との声も聞かれ、ウエットラボの醍醐味である「見て・触れて・感じる」を体感していただけたと思います。

当日はインストラクターの熱意、また参加者の学ぶ意欲で会場は熱気につつまれ、盛会であったことを感謝いたします。回を重ねるたびに規模、質ともにグレードアップするウエットラボ、次回開催が楽しみです。

ながお しんいちろう

● アンケート「ウエットラボの全体の印象はいかがでしたか」



〈参加者の声から〉

・実際にステント留置や、血管縫合など、通常できない貴重な体験をさせていただき感動しました。
・分野の違う参加でしたが、とても楽しく実習出来ました。先生方のユーモアあふれるお話がステキでした。

お得なプラン考案中で～す

土佐御苑 三代目若旦那 横山公大さん



今夏の一日、仲良しの企業の地産地消行事に息子ふたりと参加した

人が大勢集まる施設(近森病院外来センター)が隣りにオープンしたことを新たなビジネスチャンスにしたいと、三代目の若旦那さんはいま寝る間も惜しむ勢いで、プランを練っている。従来の「旅行」を膨らませて、メディカル(医療)ツアーと呼べるような「健診目的の宿泊プラン」や、「栄養士の献立による美食プラン」など次々目新しいツアー企画を編み出し、近森会の患者さんやご家族を中心に、広く一般のお客さんや近森会スタッフにまで範囲を拡げて提案していきたいのだそうだ。

昭和39年創業の老舗旅館を受け継ぐ立場の公大さんにとっては、「人の賑わいの生まれやすい駅前という地の、相乗効果を狙った取り組みが求められると確信している」という。外来センターの町並みに配慮した外観に土佐御苑もマッチするよう、改

装の折には合わせていくなど、地域の景観を創り出す一角としての視点を大事に、高知のまちづくりを考える流れのなかでの旅館業の未来を考えていきたいと、その発想は広い。

公の場で大きくなあれ!と願いを込められた「公大」の名前に恥じないよう、地域への感謝も忘れず、地域の発展のなかでこそ自分たちも伸びていける!と強調する。

一日5時間弱の睡眠だが、大好きな息子たちとできるだけ一緒に過ごせるよう、ヒマを見つけては出かけている。社会性や責任感を教えるため、今からセッセと実践を積み、大きく羽ばたいてくれる日を夢見ているそうだ。

ニューフェイス

①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



岩佐 瞳

いわさ ひとみ①放射線科
医師②高知県吾川郡③高知
大学④画像診断などを中心
として少しでもお役に立て
るよう頑張っていきたいと思
います。

2011年10月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	18,248 人
新入院患者数	815 人
退院患者数	829 人

近森病院

平均在院日数	15.43 日
地域医療支援病院紹介率	86.49 %
救急車搬入件数	453 件
うち入院件数	234 件
手術件数	438 件
うち手術室実施	296 件
→うち全身麻酔件数	174 件

● 平成23年10月度県外出張件数
件数74件 延べ人数156人

図書室便り (2011年10月受入分)

- ・心臓腫瘍学 / 天野純 (総編集)
- ・軟膏・クリーム配合変化ハンドブック
ー処方・調剤の適正使用ガイドラインー
/ 江藤隆史 (他監)
- ・錠剤・カプセル剤粉砕ハンドブック第
5版 / 佐川賢一 (監)
- ・エンゼルケアのエビデンス!? 死に立ち
会うとき、できること / 上野宗則 (編著)
- ・JIN スペシャル No.92 アセスメント
力を高めるバイタルサイン / 得田安春
- ・石巻赤十字病院の100日間東日本大震
災 医師・看護師・病院職員たちの苦闘
の記録 / 石巻赤十字病院由井りょう子
- ・平成23年版厚生労働白書社会保障の
検証と展望～国民皆年金・皆年金制度実
現から半世紀～ / 厚生労働省 (編)
- 《別冊・増刊号》
- ・別冊医学のあゆみ 認知症 ー研究・臨
床の最先端 / 岩坪威 (編)
- ・日本医師会雑誌 140 巻 特別号 (2) 生
涯教育シリーズ 81 症状からアプローチ
するプライマリケア / 日本医師会学術企
画委員会 (編)
- ・別冊 整形外科 60 骨粗鬆症ー新たな
骨折を防ぐ最新戦略 / 遠藤直人 (編)
- ・臨床画像 Vol.27 10月増刊号研修医が
知らなくてはならない救急疾患のCT・
MRI / 後閑武彦 (編)
- ・形成外科 Vol.54 増刊号美容医療私の方
法と合併症回避のコツ / 野崎幹弘 (編)
- ・関節外科 Vol.30 10月増刊号人工膝関
節のデザインとバイオメカニクス / 吉矢
晋一 (企画・編集)
- ・精神科治療学 Vol.26 増刊号神経症性障
害の治療ガイドライン / 「精神科治療学」
編集委員会 (編)
- ・臨床と微生物 Vol.38 増刊号真菌の検査法
ー形態学的同定検査を中心に / 小林芳夫 (編)
- ・HEART nursing 2011 年秋季増刊患者さ
んの「ハテナ」にナースが答える! 心臓
まるごと Q&A230 患者指導にそのまま
使える説明シート付き / 上田裕一 (監)
- ・EB NURSING Vol.11 増刊2号スマート
看護研究実践ガイド / 西垣昌和 (他著)
- ・臨床栄養別冊 JCN セレクト6 栄養療法に
必要な水・電解質代謝の知識 / 井上善文 (編)
- ・INFECTION CONTROL 2011 年 秋季 増
刊 感染対策ズバツと問題解決ベストア
ンサー 171 ベテランICNのコンサルテ
ーション術まるわかり / 日本感染管理ネッ
トワーク (編)
- 《視聴覚資料》
- ・2011.3.11 東日本大震災 初動の記録 /
石巻赤十字病院 (監修)
- ・Audio-Visual Journal of JUA Vol.17No.4
/ 日本泌尿器科学会 (監修)

編集室通信

先日両親が還暦を迎えました。お祝い
旅行を兄弟で企画、初夏に生まれた甥っ
子も一緒に3世代での初の家族旅行に出
かけました。家族が増えた幸せを再確認
し、また両親がいつまでも仲良く元気
にいてくれる喜びを噛みしめました。(陽)